

令和5年度 県立土浦工業高等学校自己評価表

目指す学校像	自己開発や自己実現に必要な知識・技能の修得を図るとともに、豊かな人間性の涵養と心身の鍛練に努め、幅広い視野に立って社会の発展に寄与する青少年の育成を図る。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	工業各学科の特徴を生かした実践的・体験的な教育課程と地域産業界・業界団体と連携したキャリア教育による、就職から進学まで、生徒一人一人に対応した進路希望を実現する。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	工業各学科の特徴を生かした実践的・体験的な教育課程と地域産業界・業界団体と連携したキャリア教育による、就職から進学まで、生徒一人一人に対応した進路希望を実現する。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	モノづくりや工業の様々な分野に関心を持ち、専門的な技術・技能の修得と自らの進路実現に向けて積極的に様々な活動に取り組む意欲のある生徒。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
実験・実習、内容の見直しを行うこと。安全教育を実施し、実習の安全意識の向上を進めていく。カリキュラムマネジメントによる教科横断的取り組みの促進。新教育課程における評価項目の検討。 学力向上の指針に基づき、個々の学力向上をはかり、生徒がさらに積極的に学習活動へ向かうように促す。工業基礎、実習にてブリーフィングを行い安全作業の徹底の継続。 工業科目とのつながりを意識した授業展開。生徒に充実感を与える授業の実践。視聴覚教材を使用した、教授方法のさらなる工夫改善。生徒の表現力向上を促す場面を、より多く取り入れる。 グーグルフォームを利用し、家庭学習の習慣化を図り、ICT 機器を利用し基礎学力を高める。生徒が何を学ぶことができたかが明確な題材を設定する。生徒用タブレットの使用頻度が少なかった。教員と生徒が双方向に活用し、生徒の学習状況を効率良く把握するために、教員間で研修が必要。学年で一般常識&SPIドリルを購入し、LHR等で	工業教育の特色を活かし、社会貢献ができる生徒の育成	① ものづくりや資格の取得を強化して、工業に関する知識・技能・技術を修得させる。 ② 工業教育の特色を十分に発揮し、新たな技術に対応できる実践力と未来を創造する力を養う。 ③ 工業人としての自覚を形成し、自ら学び、考え、社会の変化に対応するための「生きる力」を育む。	A
	主体性を生かしたキャリア教育の推進	④ 組織的、計画的なキャリア教育により、社会における自己の役割と在り方を探求し、進路決定100%を実現する。 ⑤ 企業や地域社会との連携を強化して、実践的・効果的なインターンシップを実施する。 ⑥ コミュニケーション能力を高めるとともに、正しい勤労観・職業観を育成する。	B
	豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	⑦ 学校・家庭・地域社会が連携して基本的な生活習慣の確立を図る。 ⑧ 一人一人の生徒を理解するとともに、高校生としての自覚と責任感を身に付けさせる。 ⑨ 組織的、計画的な生徒指導を全教員で行い、規範意識の高揚や、マナーと道徳心を大切にする姿勢を育成する。 ⑩ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域住民、その他関係者と協力して、いじめの防止等に取り組む。	A

別紙様式 2 (高)

活用する。 主体的に各活動、各行事の計画立案、運営に各生徒が関わっていない部分がある。生徒会の活動が校内にとどまっている。各活動、各行事において計画的に運営を図り、生徒一人一人に役割を持たせ、能動的に関われるように働きかける。生徒会による積極的な校外活動および他校との交流を図る。 学校案内・WeBページなどによる本校の魅力の発信。・SNSに安易に投稿することについて危険性について指導を徹底していく。いじめの事実を確認した場合は、組織として対応し、特に被害者の心のケアと早期解決に努める。いじめ防止対策会議の中でも、生徒情報の共有は今後も密に行う。今後も組織的・継続的にいじめの未然防止、早期発見に努める。担任が生徒面談をこまめに行うとともに、家庭との連携・連絡を密にする。また、各教科と連携しながら指導する。 学力向上の指針に基づき、個々の学力向上をはかり、生徒がさらに積極的に学習活動へ向かうように促す。工業基礎、実習にてブリーフィングを行い安全作業の徹底の継続。 資格検定試験の合格率向上と上級資格取得に向けた取り組み。正しい勤労観および社会人基礎力の獲得。SPI や筆記試験等、就職希望者への学年・進路指導部等と連携した計画的な対応。工業系大学進学希望者の入学後の不安解消。企業(学校)研究を行い自ら希望する企業でのインターンシップを行い、職業観、就業観のさらなる育成を図る。 生徒の特性を理解し、一人ひとりの個性に応じた	基礎学力の向上	⑪ 生徒の実態に即して、ICT等の活用や「わかる授業」を実践し、授業の改善に努め、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。 ⑫ 必要に応じて、義務教育段階の学習指導を行い、自ら継続して、学ぶ習慣を身に付けさせる。 ⑬ 進路希望に応じたきめ細かな指導を工夫・実践することにより、より高い目標に挑戦する意欲を育て、「確かな学力」を身に付けさせる。	B
	特別活動の活性化	⑭ ホームルーム活動や部活動などの様々な学校生活の中で、自主性・協調性を発揮し、問題解決しようとする実践的な態度を身に付けさせる。 ⑮ 部活動の加入・継続を促し、健全な心身の成長と、広く有意義な交友関係を築くとともに、学校の活性化を図る。	B
	P T A 活動の活性化	⑯ 生徒一人一人の健全な育成を目的として、保護者と教師が密に連携し、信頼関係の上に P T A 活動を推進する。 ⑰ 地域社会と連携し、積極的に情報を発信する機会を設け、開かれた学校づくりを推進する。	B
	信頼される学校であるために	⑱ 教員一人一人が、コンプライアンスを遵守し、「信頼される教員」であることが「信頼される学校」づくりにつながることを認識する。 ⑲ 教員がこれまでの働き方を見直し、自分の授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行う。	B
	働き方改革に関するもの	⑳ 定時退勤日の設定や時差出勤制度の活用による業務効率化の意識向上と残業時間の削減。 ㉑ 「部活動の運営方針(改訂版)」(令和 4 年 12 月茨城県)に基づいた部活動運営による残業時間の削減	A
	キャリアパスポートに関するもの	㉒ ものづくりの課題を予見と分析をすることで計画を立て、その課題には適切に処理をしながら改善を加えて、その課題に取り組める力を身につけさせる。 ㉓ 地域に貢献できる工業人として、働くという自らの将来の生き方に関連する情報を収集し、活用できる力を身に付けさせる。	B

別紙様式 2 (高)

指導の工夫と深化。実習の評価方法を評価基準の共通理解。		授業改善	授業満足度 KPI ㉔ 高校生のための学びの基礎診断における「平均 GTZ 指数」C2～D2 ㉕ 生徒アンケート「生徒の努力を認め、意欲が高まるように学びの内容や進め方を工夫している。」肯定的割合 80% ㉖ 生徒アンケート「教師が授業前にタブレット端末をすぐに利用できるように用意させている。」肯定的割合 50% ㉗ 生徒アンケート「工業教育の特色を理解し、工業に関する知識・技術を習得できた。」肯定的割合 50%		B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導 (国語科)	基礎学力の向上	生徒の主体的な学びを引き出すために、ICTを活用するなど、生徒の実態に即して丁寧な授業を行う。⑪	B	B	【課題】 ・基礎・基本の定着 ・家庭学習の習慣化 ・ICT教材の活用 ・表現力向上の機会を増やす 【取組の方向性】 ・予習復習のシステム作り ・生徒がタブレットを使用する機会を増やし、効果的かつ効率的に言語活動を実施する。
		副教材等を活用し、社会に出るに当たって必要な漢字力・語彙力の向上に努めさせる。また、漢字検定を年間3回実施し、目標達成に向けた学習に取り組ませる。⑫⑬	A		
	学習意欲を高める指導方法の工夫	定期的に小テストを実施することで、生徒に達成感や小さな努力を積み重ね学び続ける大切さを実感させる。⑪⑫	A		
		学習の進め方や課題をより具体的に示し、継続的な家庭学習を促す。⑫⑬	B		
	進路に応じた学習の補助	生徒それぞれの進路実現に向けて、作文や小論文などの指導を定期的に行う。⑫⑬	B		
		インターンシップや進路活動と関連付けて、話すことや書くことの指導を行うことで、コミュニケーション能力を高める指導を行う。④⑥⑬	A		
教科指導 (地歴・公民科)	基礎学力の向上	基礎的・基本的な学力の定着のため、授業内容の精選、教授方法や定期考査の改善を図る。⑪⑫⑬	B	B	【課題】 ・基礎・基本の定着 ・時事問題への対応 ・ICT教材の活用 ・表現力向上の機会を増やす 【取組の方向性】 ・個々の生徒に対応できる指導体制を構築する。
		生徒の主体的な学びにつながるよう、調べ学習や発表の機会をもうけ、生徒表現力も同時に育む。⑪⑫⑬	B		
	学習意欲や理解を高める指導方法の工夫	教科書の内容を軸としながら、生徒の問題関心に沿って題材を取り上げ、学習意欲向上につなげる。⑪⑬	A		
		生徒の学習意欲を高め、かつ学習内容の理解を向上させるため、視聴覚教材等を使用し、教授方法の工夫改善を図る。⑪⑬	B		
教科指導 (数学科)	基礎学力の向上	年間指導計画（シラバス）に沿って、科目の目標、指導内容、評価計画等を明確にした授業を実践する。⑪	A	A	【課題】 ・SPIや筆記試験等、就職希望者への学年・進路指導部等と連携した計画的な対応。 ・工業系大学進学希望者の入学後の不安解消。
		基礎的・基本的内容が身につけられるよう、教材・指導内容の精選を図る。また、学年の担当者と連携をとりながら、より効果的な指導方法で授業を展開する。⑫	B		
	学習意欲を高める指導方法の工夫	工業系大学進学希望者への課外や、学習が遅れがちな生徒等に対応する補習を適宜行い、指導の充実を図る。⑫	A		

別紙様式 2 (高)

		実用数学技能検定を実施する。必要に応じて補習を計画し、受験者数の増加及び合格率の向上に努める。 ⑪⑫⑬	A		【取り組みの方向性】 ・クラス学習の遅れがちな生徒への対応とともに、意欲のある生徒にも充実感を与える授業の実践。 ・実用数学検定資格取得への意識を高め、合格へ導きたい。
		生徒の実態や工業各科の特性に応じて、教材や指導内容の選択を検討し、興味・関心を引き出し、専門科目に対応する力をつけさせる。 ①⑪⑫	B		
教科指導 (理科)	基礎学力の向上	年間指導計画に従った計画的な授業展開を心がけ、振り返りや演習、復習を織り込んで基礎学力の向上を目指す。 ⑪⑫⑬	A	A	【課題】 ・基礎学力の向上 ・薬品の管理方法 【取組の方向性】 ・「わかる授業」の展開、個に応じた指導 ・薬品管理簿のデータ化
	実験を取り入れた 授業展開の工夫	実験を中心とした指導を通して、基本法則を理解させ、ネット教材・電子黒板等も利用して科学的な常識 を身につけられるように指導する。 ⑪	A		
	実験室・薬品庫等 の整理整頓	薬品管理台帳を活用し、効率的な薬品の利用及び不要薬物の廃棄に努める。 ⑩⑫	B		
	進路にあわせた学 習の補助	進学希望者に対して科目の課外協力や受験に必要な補習等を実施し、上級学校に向けてのサポートをする。 ④⑬	B		
教科指導 (体育科)	教科指導の充実	挨拶や服装、時間厳守などの指導を徹底する。 ⑨⑫	A	A	【課題】 ・運動が苦手な生徒が女子でも活動しやすいように工夫する。 【取組の方向性】 ・個々に合わせた指導・声掛け等で充実感のある授業の実施
		補強運動などを活用し、体力の向上に努める。 ⑫	A		
		視聴覚教材を活用し、生徒の興味・関心を引き出す。 ⑪	B		
	事故防止	授業時のルールを作成し、安全指導の徹底を図る。 ⑨	A		
		準備運動・整理運動の指導を徹底する。 ⑨⑫	A		
		施設・器具・用具の安全点検や整理整頓を行う。 ⑨⑫	A		
教科指導 (英語科)	教科指導の充実	年間指導計画（シラバス）に沿って科目の目標、指導内容、評価計画等を明確にした授業を実践する。 ⑪	A	A	【課題】 ・基礎学力の向上 ・家庭学習の習慣化 ・言語活動の時間を増やし英語によるコミュニケーション活動の充実を図る。 【取組の方向性】 ・ICT 機器を活用したパフォーマンステストを行う。 ・提出物の徹底 ・資格取得に意欲的に取り組
		提出物の指導を徹底し、基礎的・基本的な内容を身に付けさせるとともに、定期的に課題を与えることで家庭学習における学習指導の確立を図る。 ⑫	A		
		ペアワークやグループワークによる言語活動を充実させ、英語を用いて生徒が能動的に考えることのできるような授業展開を心がける。 ③⑫	B		
		1 学年の英語コミュニケーション I において、ALT との T T を通して生徒の英語学習への動機付けを図る。また、英語によるコミュニケーション能力を高め、異文化理解を深める。 ③⑥	A		
		電子黒板等 I C T を積極的に利用し、生徒の実態に応じた指導方法の工夫を図り、興味・関心を引き出し、生徒の集中力を持続させられるように努める。 ⑪⑫	A		
	資格取得の推進	リスニング英語検定の補習等を計画的に企画・実施し合格率の向上を図る。また、英語検定	A		

別紙様式 2 (高)

		の受験を積極的に促し、目標達成に向けた指導を行う。①⑬		B	ませ、合格に向けた指導を行う。 ・家庭学習の習慣化
	進学体制の構築	英作文の指導など生徒のニーズに応じた課外を行い、進学対策を行う。⑬			
教科指導 (家庭科)	基本的な知識と技術の定着	授業内容の理解を深めるため、電子黒板やタブレットを効果的に活用する。⑪	A	A	【課題】 ・課題解決のためのホームプロジェクトの実践。 ・長期生活設計の立案及びリスクマネジメントに係る指導法の構築。 【取組の方向性】 ・資産形成等、経済生活分野の他教科や外部との連携。 ・実習における安全管理マニュアルの作成と徹底。
		基本的な知識及び技術を確実に身に付けられるよう、基礎の反復を徹底する。⑪⑫	A		
	学習意欲を高める指導方法や教材の充実	教材や指導内容を精選し、生徒一人一人の進度に対応したきめ細かい指導に努める。⑬	B		
		段階的に難易度を上げることで、生徒の自信に繋がるよう工夫する。⑫	A		
	家庭生活の向上や課題解決に結び付く工夫	学習内容を生活の中で即実践できるよう、実生活に結び付いた題材を多く取り入れる。③	A		
		早期の自立や課題解決のため、自ら考え表現できる能力を育成する。⑦	B		
教科指導 (芸術科)	基礎的な知識と技術の定着	基礎的な知識や技術を身に付けられるように教材・副教材の精選を図る⑪	A	B	【課題】 ・生徒の特性を理解し、個性に応じた指導の工夫と深化。 ・「思考力・判断力・表現力」の総合的な育成。 【取組の方向性】 ・鑑賞の分野だけではなく、表現の分野でも ICT 機器を活用した授業を行う。
		練習課題を充実させることで、基礎的な技術を段階的に習得できるようにする。⑫	B		
		生徒一人ひとりの個性に応じた個別指導の充実に努める。⑫⑬	B		
	学習意欲を高める指導方法の工夫□	通信環境を確保し、ICT 機器を活用した授業を展開する。⑪	B		
		生徒が何を学ぶことができたかが明確な題材を設定する。⑫	A		
教科指導 (機械科)	基礎・基本的知識と技術指導	基礎的・基本的な技術指導の充実に図り、実験・実習を通して体得させ、機械技術の発展に対応できる能力を養わせる。①②③	A	A	【課題】 生徒の多様化に伴い基礎技術の指導にて時間を要する。個人の差が大きい。 【取り組みの方向性】 継続した指導をする。 施設・設備の更新を進め、情報共有、指導技術向上のための研修をする。
	キャリア教育の推進	実習等を通して勤労意欲の向上を図ると共に、協力して作業等にあたる姿勢および責任のある態度を育成する。②③⑥	A		
	施設・設備の充実	老朽化した施設・設備の更新を進めると共に、破損した施設・設備の修繕を図る。②③	A		
	資格取得の推進	進路によって必要な資格の調査・研究を行い、資格取得の機会をつくるとともに継続的に指導できる協力体制の確立を図る。①④⑪⑬	A		
	指導者の技術向上	ICT 等を活用した資料の共有をし、授業の改善に努める。指導者の技術向上のため、研修等の機会をつくる。⑤⑪	C		

別紙様式 2 (高)

教科指導 (電気科)	教科指導の充実	基礎基本に重点をおき、基本的な知識・理解につながる指導を展開する。わかり易い授業を 目指した授業の改善工夫をする。 ①②⑧⑪⑱	A	A	【課題】 ・ ICT 機器を活用した授業や 実習の充実 ・ 資格試験の合格率の安定 ・ 経年劣化した実習用機器、 備品等の更新 【取組の方向性】 ・ 新学習指導要領に向けた評 価について ・ 資格取得の指導力の向上、 指導体制の確立 ・ 配慮が必要な生徒への情報 共有と対応 ・ 学校外の体験教室などに おける準備や対応
	ものづくり技術の習得	ものづくりの実習を充実させ、技術・技能の向上を図り、開放講座や産業祭等での体験教室 を実施し、地域社会へ PR 活動を展開する。 ①②③⑤⑥	A		
	実習設備の整備	整理整頓、清掃を実施し、実習室の美化に努める。 老朽化した施設設備の更新と、既存機器類の性能維持に努める。 ②③⑦⑨	B		
	資格取得の推進	課外指導を展開すると共に家庭学習の習慣を身に付けさせる。各資格試験の合格率の向上を 目指す。 ①③⑧⑫	A		
	キャリア教育の推進	社会人として求められる規範意識やマナーを身に付けさせると共に、健全な勤労観の育成と、 電気科の卒業生としての望ましい進路意識の高揚を目指す。 ③④⑤⑥⑦⑧	B		
	安全教育の徹底	実習室の機器・器具の整理整頓を心掛ける。実習を通して、作業の安全に対する意識を高揚 させる指導を行い、事故の未然防止に努める。 ②③⑨⑬	A		
教科指導 (情報技術科)	授業改善の推進	PDCA サイクルに基づいた授業改善を推進する。 21 ⑫⑬⑮⑯⑰	B	B	【課題】 ・ ICT 環境の整備・運用。 ・ キャリア教育、課題研究の 充実。 ・ 資格検定試験の合格率向上 と上級資格取得に向けた取り 組み。 【取組の方向性】 ・ 情報技術に関する基礎的技 術・技能の習得 ・ 職業観・勤労観の育成
	課題研究の充実	ものづくり教育を推進しながら、専門性を重視し、課題研究に対して自主的・主体的に取り 組む態度を養成する。 ①②③	A		
	キャリア教育の充実	健全な勤労観の育成を目指し、授業や実習を通して社会人としての規範意識やマナーを身に つけさせ、進路希望の実現を目指す。 ④⑤⑥⑨	B		
	検定合格・資格取得の推進	情報技術関連をはじめ、各種検定合格・資格取得を目標とすることにより、専門教科への興 味や関心を高め、工業に関する知識・技能・技術を修得させる。 ①②	B		
教科指導 (建築科)	授業の工夫・改善	工業に関する知識・技能・技術を学び、実践力を身につけることで、主体的に取り組む態度 を養う。 ①②③⑮⑯⑰	B	B	【課題】 ・ よりよい授業を行うために 常に工夫や改善をしていく。 ・ 様々な学習の機会から自分 の将来について、目標を持っ て生活できる態度を育成す る。 【取組の方向性】
		積極的に I C T を活用するなど授業の工夫、改善に努めながら、生徒の興味や関心を引き出 す。 ②⑪⑯	B		
	キャリア教育の充実	建築関連の資格取得をはじめ、工業全般の資格取得を目標とすることにより、専門教科への 興味や関心を持たせる。 ①②	B		
		実習開始の事前指導を通して、授業に取り組む姿勢や基本的生活習慣を身に付ける。⑥⑧⑨	B		

別紙様式 2 (高)

		現場見学会や建設会社での就業体験を実施し、建設業界への理解や建築への興味・関心をさらに持たせるとともに、建設会社への就業意識を高める。 ④⑤⑥⑨	A		・目的意識の向上 ・ICTの積極的な活用 ・PRの推進
	PRの推進	各種イベントや発表会等の機会を通じて、課題研究や実習等の成果を生徒とともに校内外に情報発信をする。 ⑭⑰	A		
		生徒の取り組みや学校生活が見えるように、ホームページを積極的に活用する。 ⑰	A		
教科指導 (土木科)	土木に関する基礎技術の習得	授業などをとおして、基礎学力の充実を図り、土木技術の進展に対応できる能力を養う。①⑫	B	B	【課題】 ・日々の教育活動をとおし生徒を理解し、個々に応じた指導の推進をするとともに、職業観や勤労観の育成を行う。 【取組の方向性】 ・生徒が興味・関心をもち、わかる授業を展開する。また、関係団体や業界と連携し、現場見学会や出前講座などを実施する。
		生徒の実態に合った授業内容の工夫や教員の指導力の向上および放課後等の補習の実施により、学習内容の定着に努める。 ①⑪⑬	A		
	勤労観および社会人基礎力の育成	授業等をとおして、土木技術の社会的意義を理解させ、正しい勤労観を養う。 ③⑥	B		
		現場見学や体験学習などを取り入れ、土木技術の社会的意義や重要性を実感させる。 ③⑤	A		
	生徒理解に努める	服装や挨拶、時間の厳守などの指導を徹底することにより、基本的生活習慣の確立を図る。 ⑦⑨	B		
		授業等の時間および面談をとおし生徒理解に努める。 ⑧	B		
教 務 部	特色ある教育課程の編成と運営	学校行事等の精選と授業時間確保を行い教員の働き方の効率化に努める。 ⑪⑫⑬⑳	A	A	【課題】 ・生徒が自ら学習に意欲的に取り組む態度を育成するための有効なカリキュラムマネジメント検討による生徒の基礎学力の向上 ・いじめ防止対策に関する研修会の充実 【取組の方向性】 ・学校案内・WEB ページなどによる本校の魅力の発信 ・進路指導部と情報管理部とのより一層の連携
		生徒が自ら学習に意欲的に取り組む態度を育成することで、基礎学力の向上を図る。 ①②③	B		
	指導計画・評価の明確化	学習評価の工夫改善を推進し、観点別評価のより一層充実に努める。 ②③⑪⑫⑬	A		
		シラバスを作成することで、指導目標、評価の観点、方法を明確にして、生徒の主体的な学習参加を促す一助とする。 ②⑬	A		
	学校広報の充実	工業科施設見学・説明会、中学校説明会を充実させ、本校の魅力を直接的に地域に伝える。 ⑰	A		
		学校案内、WeBページ等のデザインや内容の充実を図る。 ⑰	B		

別紙様式 2 (高)

	教員研修の充実	電子黒板や学習用端末などのICT活用、いじめ対応やコンプライアンス等の教員研修を充実さる。 ⑪⑫⑬	B		・ICTの増進と学習用端末の効果的活用
	ICT教育活動の推進とGIGAスクール対応	教育活動での活用例の紹介などを通して、ICT機器の利活用を促進していく。 生徒・教員のGIGAスクール構想への理解を深め、効果的な教育活動になるように支援する。 22 ⑭	B		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	全職員による年間を通した朝の立哨・昼の巡回指導、生徒への声かけを行い、基本的生活やマナーアップの向上や規範意識の向上を図る。 遅刻指導を実施し、基本的生活習慣の確立を図る。 校内におけるスマホ使用のマナーやながらスマホ・イヤホンについて指導の徹底を図る。 ⑦⑧⑨	A	A	【課題】 ・年間を通して全職員による立哨巡回指導が継続できれば基本的生活習慣の確立やマナーアップ、問題行動の未然防止につながる。 【取組の方向性】 ・ルールやマナーを生徒達に理解させ、立哨巡回指導の重要性を全職員が共通理解した上で、年間を通して実施できれば問題行動件数の減少や、よりよい本校生の育成につながる。
	問題行動の未然防止	校内・校外の巡視及び立哨指導、被害調査を定期的及び臨時的に実施し、問題行動の未然防止に努める。更に家庭や関係機関との連携を密にし、情報共有を図り、適切な指導を行う。 ⑦⑧⑩	B		
	交通安全教育の推進	交通事故防止対策について、関係機関と連携を強化すると共に、交通法規やマナーについて、ホームルームや集会、講習会等を通して指導し、交通事故の未然防止を図る。 自転車点検、バイク点検を年3回実施する。 ⑧⑨	A		
	インターネットを介した諸問題の防止	「土浦工業のスマホ等の使用のルール」について周知徹底を図り、又ホームルーム活動での啓発や講習会での啓発など、ネット（SNS等）を利用時におけるトラブルの防止に努める ⑨⑩	A		
	校則検討	学校や社会の実態に即した校則を、生徒会役員を含む校則検討委員会と共に、年に1回検討する。 ⑧⑨⑭	B		
進路指導部	3年間の明確な進路指導計画の立案と実施	計画的な進路ガイダンスや各種適性検査などを活用し、早い段階で進路目標を明確にし、将来に夢や希望が持てるキャリア教育の展開を図る。 ②③④⑥⑧⑭	A	A	【課題】 ・求人増加に伴う来客対応や書類整理、データ管理、資格管理など多岐に渡る業務を一丸となつて行う。 【取組の方向性】 ・生徒の進路実現に向けた取り組みの支援 ・学年との連携 ・正確な情報発信と管理
	外部との連携の充実	インターンシップ、進路セミナー、産学連携などの外部と関わる事業を通して、勤労観や社会性、職業に対する見方・考え方の形成を図る。 ③④⑤⑥⑦⑨⑰⑳	A		
	進学支援や情報提供の充実	進路指導室の整理整頓を行い、資料の閲覧や利用しやすい環境作りに努め、進路の手引き、指定校一覧、PDF求人票など分かりやすい情報提供を行う。各種奨学金の紹介を通して、在校生・進学予定者を支援する。 ㉓ 大学進学を希望する生徒に対し、進学模試の実施や進学課外の計画に向けて支援する。 ⑬	A		
			B		
	資格取得の奨励	生徒が自ら資格取得の意義や重要性を理解し、積極的な出願・取得に至るようHR・授業を通して指導する。検定受検や、資格取得を通して生徒に達成感を持たせ、学力増進の意欲向上を図る。 ①⑪⑬㉗	B		

別紙様式 2 (高)

図書視聴覚部	図書館・視聴覚室の利用の活性化を図る	様々な機会を捉え、授業やHRや学校行事その他、幅広い方面での図書館・視聴覚室利用を促し、職員・生徒への便宜を図る。 ③⑭	B	B	【課題】 図書館利用の向上を目指す 【取組の方向性】 図書委員会の更なる活性化 放課後等の常時開館の継続
		担当職員での連携を密にし、昼休み・放課後の当番制を実施し運営にあたる。 ⑨⑳	A		
	施設の利用マナーを通じた規範意識の育成	利用する職員との連携を図り、利用生徒のマナー向上を図る。 ⑧	B		
		図書委員が、図書館運営のため積極的に活動できるよう図書委員会を指導する。 ⑥⑭	A		
	図書館・視聴覚室の利用環境整備	職員側・生徒側からのニーズに合わせ、蔵書・器材の充実を図り、計画的な購入整備を進めるとともに、図書館内の整理整頓にさらに努める。 ③⑭	B		
	読書指導の充実	「図書館のしおり・図書館だより」や図書館内のコーナーなどで、読書への興味を喚起するとともに様々な形態での楽しみ方を提供する。 ③⑥⑨⑰	B		
渉 外 部	P T A活動の活性化	本部役員を中心とした委員会活動や研修会などを通し、保護者と教職員が連携を取り、協力し合うことで、P T A活動の充実と活性化を図る。 ⑯	B	B	【課題】 ・ホームページ等による家庭への情報発信の充実 【取組の方向性】 ・ホームページの更新内容についての検討
	積極的な情報発信	広報誌「いちょう」の発行や学校ホームページの更新をすることで、情報が家庭に伝わるようにすると共に、研修会などを通して保護者と教職員の親睦を図るなど、開かれた学校づくりに努める。 ⑰	B		
保健厚生部	健康の保持増進	定期健康診断を正確に受けさせ未実施者をなくす。 ⑭	A	B	【課題】 ・ゴミの分別（特にペットボトルと空き缶）と少量化。 【取組の方向性】 ・新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ拡大防止対策の徹底。 ・生徒の多様化に伴い、カウンセリングの充実と、関係機関との連携。
		HRと連携し、健康・安全の自己管理能力を高める。 ⑦	B		
		カウンセリングの充実と、関係機関とのより一層の連携を図る。 ⑧⑩	A		
	環境衛生の維持向上	日常検査及び定期検査を実施し、事後処理を迅速に対応する。 ⑨	B		
		毎日の清掃指導を徹底させるとともに、きれいに使う指導をする。 ⑦	A		
		ゴミの分別（ペットボトルと空き缶）と少量化に努める。整美委員会 により環境美化を図る。 ⑦	B		
	安全な学校生活の保持	学校生活を通して危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ⑦⑭	B		
		緊急時にはその場にいる教職員が迅速に対応する。 ⑦⑧	A		

別紙様式 2 (高)

		防災訓練は地震火災等の状況下の避難方法を経験させる。 ⑨	A		
		地域住民と連携し安全の確保を図る。 ⑦	B		
特別活動部	生徒会活動・学校行事の活性化	学校行事を通して、生徒一人一人に役割を持たせ、自分も関わろうとする意欲を引き出すよう努める。工業祭、つちこうフェスなどの行事を通して責任感や自主性、協調性の育成に努める。 ⑭⑮	B	B	【課題】 ・教員間の連携・協力をはかることで、生徒会活動、委員会活動、HR 活動、学校行事について、円滑な運営を進められるようにし、生徒一人一人の役割を明確にする。 【取組の方向性】 ・教員に対し、早めの情報提供をすることで、コミュニケーションを密にしていく。共通理解を図ることで、連携・協力体制を強化し、円滑な運営につなげられるようにする。 ・各活動、各行事において教員間の連携・協力を図ることが、生徒一人一人に目的意識を高め、役割を持たせ、能動的に関われるようにつなげる。それぞれの成果をとoshi、生徒の参画意欲をより育てられるように図る。
	部活動の活性化	新入生の部加入を促して加入状況を把握し、部顧問と HR 担任との円滑で連携した指導につなげ、適正な運用に努める。また、行事費、旅費等の便宜を図り、生徒への予算の還元に心がける。家庭とも連携し、積極的かつ継続的な活動ができる環境づくりを図る。 ⑭⑮	B		
	HR 活動の活発化	HR 活動の年間計画を検討し、学年、担任と協力して HR 活動の活発化を促し、生徒の集団内での自己実現を図り、誇りや愛校心を持てるような活動を通して育成する。 ⑭	B		
	キャリアパスポートの運用	進路指導行事や各学科の学習活動と関連づけたキャリアパスポートの活用を促し、各 HR および特別活動を通して生徒の自己のキャリア形成を支援する。 ④②③	C		
	生徒会の委員会の活用を促す	担当校務分掌との連携を図り、生徒会の行事に委員会が積極的に関わるように働きかけ、成果を通して生徒の参画意欲を育てる。 ⑭	B		
	生徒会活動の広報	生徒会 HP、校内モニターを活用し、生徒会活動・学校行事等の広報に努める。 ⑭	B		
情報管理部	校内 LAN の管理・運用を行う。	校内 LAN、ファイルサーバの管理・運用を適切に行い、有効に活用できるように努める。 ⑪⑮⑯	A	B	【課題】 ・校内で使用する情報機器やソフトウェア等の管理・運用・更新を円滑に行えるようにする。
		情報保護やウイルス対策などセキュリティ対策に努める。 ⑮	B		
	校務支援システムの運用支援を行う。	校務支援システムの管理・維持を行い、円滑な運用と適切な活用ができるように努める。 ⑮⑯	A		

別紙様式 2 (高)

	情報発信の改善・運用を行う。	ホームページを適切に管理・運用し、本校からの情報発信を行う。 ⑤⑦⑩⑫③	B	【取組の方向性】 職員との協力及び他分掌等との連携により、情報の管理・情報発信を行う。	
	I C T教育の支援を行う。	教育セグメントの環境整備に努める。I C T機器、備品等の適切な維持、管理に努める。 ⑪⑬	A		
第1学年	豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	基本的生活習慣が確立するよう、時間や学校ルールを守らせ規範意識を高める指導を行う。また人間相互のコミュニケーションを深めるために挨拶をしっかりとできるように指導する。 ⑦⑨	B	B	・中堅学年として、基本的生活習慣が身についた学校生活の定着を目指す。 ・進路実現を目標とした意識づくりと行動を計画的に早期から行う。 ・基礎学力の定着と学習習慣の確立のための学習を継続する。進路対策の学習をつなげていく。 ・生徒、保護者との人間関係を深められるよう連絡・相談を密にし、丁寧な対応を引き続き心がける。
		生徒面談、保護者面談を通して生徒理解に努め、適切な指導を行う。 ⑧⑬			
		「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見解決に努める。 ⑩			
	基礎学力の向上と資格取得の推進、進路意識の向上	計画的に学習と補習を実施し、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。 ⑪⑫	A		
		一人一つ以上の資格取得、検定試験の受験を促し、合格できるよう指導する。 ①②			
	生徒会活動や部活動の活性化	進路指導部と連携し、講演会やワークショップを実施して進路意識の向上を図る。 ⑬	B		
		部活動の加入、定着を促し、生徒の有意義な交友関係と、学校活性化を図る。 ⑭⑮			
主体性を生かしたキャリア教育の推進	進路講話や体験を通し、社会における自己の役割と在り方を探求し進路決定を目指す。 ④	A			
	コミュニケーション能力を高めるとともに、正しい勤労観・職業観を育成する。 ⑥	B			
第2学年	豊かな心の育成と規範意識の確立	「道徳プラス」をホームルームで実施し、主体的・協働的な態度を育成する。「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努める。保護者と連携し、基本的生活習慣・規範意識の確立を図る。 ⑦⑧⑨⑩	B	B	学校の生徒指導の面で、「多様性」や「人権」の観点で、校則が見直されつつある。その中でどんな指導をしていくべきか、土浦工業高校と地域・企業更には教育委員会との認識に齟齬が生じている。土浦工業高校は就職指導をメインに考えている県南の工業高校としていかなければならないのではと考える。「組織」と「個性」は相反するものではあるが先生が指導したことについて、素直に受け入れられる生
	基礎学力の定着と資格取得の促進	夏季休業中の前後及び学年末考査の後に作文指導を行い、志望理由など文章を書く能力の向上をはかる。積極的に資格取得に取り組ませ、工業に関する知識・技能を修得させる。 ①②⑫⑬	B		
		基礎力診断テストや一般常識& S P I 問題集を継続的に利用し学習習慣を身につけ基礎学力の定着を図る。進路ガイダンスを実施し、早い段階から進路希望の明確化を図る。 ④⑤⑥	A		
	進路意識の高揚とキャリア教育の推進	就職希望者に対して、企業インターンシップを実施し正しい勤労観・職業観を確立すると共に、コミュニケーション能力を育成する。進学希望者に対して、資料提供とオープンキャンパスへの参加を促す。	A		
	修学旅行の準備と成功	ホームルームを利用して事前指導を十分に行い、安全で充実した修学旅行を実施する。自然体験や文化体験、平和学習などが充実した内容となるよう計画を立て実施する。 ⑨⑭	A		

別紙様式 2 (高)

					徒を育てる学校にしなければならない。来年度就職・進学を迎える学年として、企業から期待されている生徒を教員が育てていくことを学校や教育委員会後押ししてもらえよう願いたい。
	生徒理解と保護者との連携	定期的に個人面談を実施し個々の生徒理解に努めるとともに、保護者とも連絡を密にし、信頼関係の構築に努める。 保護者と教師が連携を密にして、信頼関係の上に立ったPTA活動を実施する。 保護者が学校行事に参加しやすい環境を整える。⑬	B		
第3学年	安心・安全な学校生活の継続	安心・安全な学校生活の継続を目指して、個別面談等をとおして担任と生徒の関係を密に保つとともに、日々の授業を大切に。問題行動が発生した場合は学年一丸となって生徒指導に対応する。⑦⑧⑨⑩⑪⑬⑮	A	B	多様性や人権の問題から、多くの校則が見直されつつある。その中で、どんな指導をしていくべきか、土浦工業高校と世間または県教委との認識にずれが生じている。具体的には、服装・頭髪指導や欠課時数の数え方などである。土浦工業高校は就職指導を第1に考える学校と認識している。よって、多少理不尽な指導においても素直に受け入れられる生徒を育てる学校だと思っている。学校の育てるべき生徒像と世の中の流れのどちらを優先すべきなのか全くわからない。以上、内規を見直すことを優先して、生徒の内面における特色ある学校づくりがないがしろになっているのではないだろうか。
	進路実現に向けた生徒への指導	生徒の進路実現に向け、家庭との連携・連絡を密にする。就職試験対策と基礎学力定着のために、一般常識・SPI 問題対策・作文指導を行う。面接の受け方や履歴書・志望理由書の書き方を指導して、生徒が自信を持って試験に臨めるようにする。また、大学受験に必要な学力はもちろん、進学後も順調に進級、卒業できる基礎学力と学習習慣を身につけられるよう支援する。②④⑥⑬⑮	A		
	社会人になるための生活習慣、規範意識の確立	健康で活力ある生活を維持するため、食事や睡眠をおろそかにしないよう日頃から呼びかけ、遅刻や欠席を減らす。LHR、学年集会を通して校則や社会のルールを遵守する意義を伝える。また、生徒指導部と連携して時間と服装を守る意識を高める。着こなしセミナーや交通安全教室を通じて社会人になるために必要なことを具体的に学ぶ。⑦⑧⑨⑭	B		
	生徒理解と保護者との連携	生徒面談や保護者面談を通してクラス、学年や学校の情報を共有する。特に進路に関しては、普段から連絡を密にして連携を強化する。⑦⑩⑬⑭⑮⑯	A		
いじめ問題 対応の取組	未然防止	生徒の自己有用感を高める。⑧⑨⑩	B	B	【課題】 ・今後も組織的・継続的にいじめの未然防止、早期発見に努める。 ・関係機関と情報交換を密に連携を深め、保護者や地域と協力して対応する。 ・教員研修を充実させ、特別支援に関する対応方法などの共通理解を持つ。
		生徒の規範意識を高める。⑧⑨⑩			
		生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。⑧⑨⑩			
		情報モラル教育を推進する。⑧⑨⑩			
		いじめの早期発見に努める。⑧⑨⑩			
	早期発見	保護者から学校へ相談できる関係を構築する。⑩	B		
		複数の相談窓口を生徒や保護者へ周知する。⑩			

別紙様式 2 (高)

	早期解消	被害者の心のケアをする。	⑧⑨⑩	B	・いじめの事実を確認した場合は、組織として対応し、特に被害者の心のケアと早期解決に努める。 【取組の方向性】 ・いじめの温床は様々な場面に起こりうるので、学校風紀の安定はとても大切であるので、いじめ防止対策会議の中でも、生徒情報の共有は今後も密に行う。 ・SSW と連携を取りながら様々な問題に対応する
		適切にいじめの事実を確認する。	⑧⑨⑩		
		加害者に対して、いじめをやめさせる。	⑧⑨⑩		
		重大事態の調査をし、県教育委員会を通じて知事へ報告する。(重大事態があった場合)	⑩		
		インターネットを通じて行われるいじめに適切に対応する。	⑧⑨⑩		
		保護者と密接に連絡を取り合う。	⑩		
		地域の協力を得ていじめに対応する。	⑩		
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連携する。	⑩		
		学校以外で起きたいじめに適切に対応する。	⑩		
	教職員研修	実践的研修を行う。	⑩	B	
		事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図る。	⑩		
		インターネット・SNS等に関する研修を行う。	⑩		

※ 評価規準 A:十分達成できた B:達成できた C:普通 D:やや不十分 E:不十分